

平成15年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

御岳山の葬儀形態＜住民全体の関わり＞について

御岳山の葬儀は、すべて神葬祭で行われます。明治初期の神仏分離によって正覚寺（この時に廃寺）の影響が失われ、御師が神社の神官としての立場を明確にしたことによるものです。併せてその地理的環境から、明治以前からの住民がそのすべてを取り仕切る形態が、今に受け継がれてきたのです。以下、葬儀にあたっての山上全体の関わり、役割等について記します。

葬儀の準備（隣組）

御岳山には、自治会の組織上の班以外に、江戸時代より伝わる隣組（五人組）の組織があります。祝儀・葬儀は、この隣組が取り仕切ります。隣組とは、死者の出た家を含むその五人組の中の4軒ということになります。隣組が行う仕事は、死者が出たその当日から始まります。①死亡届を始めとする届け出全般に関わること。②縁者・友人への連絡の確認。③山上のその家のお付き合いの家（一人付き合い・二人付き合いの2種があって、それぞれの家によって異なる）に「舌代（死亡者名、死亡日時、通夜・葬儀の日時を記し、葬儀の協力を要請する文面を記す）」を持って準備のために集まる日時を告げるために、1軒ごとに廻ります。④斎主1人、斎員3人、伶人3人、受付係等の役割をお付き合いの家の中から決めて、その依頼をします。⑤会葬者への引き物、挨拶状の発注、神饌物の準備。⑥お悔やみに来た人への対応。⑦玉串奉奠^{ほうてん}の順序の決定。

通夜・葬儀の準備

「舌代」にしたがって、その家の一人付き合い、二人付き合いの人が集まります。二人付き合いの中の一人は女性、一人付き合いは男性が決まります。女性は勝手方を受け持ちます。集合は通夜当日の早朝です。あらかじめ隣組が作成した献立表（食品は、前日に隣組が注文しておく）にしたがって、お付き合いの人、通夜・葬儀の会葬者、当家の人のすべての食事、休憩時の茶菓子の準備をします。男性は、①葬祭場（すべて自宅の広間が使われる）の設営②墓標の作成、名旗、白黒の布、墓地を囲む竹、墓標ののりを土盛りするための丸太8本、
(裏面につづく)

松明一対等の準備③縁者が分霊として持ち帰る「剣ばらい」・死者が男性の場合は剣、女性の場合は薙刀なぎなたの模型、それを覆うその家の家紋の作成④埋葬祭に使う弓2張、矢4本の作成⑤届けられる花輪、生花等の運搬と飾り付け、玉串の作成等々が仕事です。

その間、斎主に指名された者は祭詞の作成にあたります。祭詞は祓詞・通夜祭詞・立棺祭詞・火葬祭詞・帰家祭詞・誅詞・出棺祭詞・埋葬祭詞・十日祭詞・会祀祭詞の計十巻、その人の経歴、人となりを踏まえて通夜祭の前までに作成します。

葬儀当日

葬儀の準備は前日に整っているのですが、女性は早朝より集まりますが、男性は葬儀の2時間ほど前に集合します。勿論隣組は早朝に集合します。葬祭場では、葬儀次第の打ち合わせや前日の不備を整え、食事そして葬儀時間の来るのを待ちます。この間、その家に付き合いない家では、墓地におもむき、埋葬の準備をします。（そこへ隣組が酒、まんじゅう等を持って協力への御礼を述べます。）この人たちは葬儀終了後の野辺送りの役割を分担します。さらに埋葬祭後に墓標を立て整地を行ないます。

葬祭場では、葬儀が終わって野辺送りが立った後、会葬者には食事が供せられます。その準備と後片付けは、付き合いの男女すべてがあたります。

夕刻十日祭（檀払い）が行なわれ、死者の御霊みたましろ〇（雨かんむりに玉）は、その家の御霊舎に合祀され、家の内外を祓い清めて葬儀を終了します。その後、お付き合いの人々に食事が振る舞われて、すべてが終わります。

このような形態は、つい近年まで各地で行なわれていたのですが、最近はすべてをその住民が取り仕切ることは少なくなりました。忘備のために記して残しておきたいと思います。

（文責 金井 国俊）